

体験と創作の間

布袋 敏 博（早稲田大学）

1. 「軍艦島」という命名について

映画「望郷 (Pépé le Moko)」

ビートルズ「ビートルズがやって来る ヤァ！ヤァ！ヤァ！ (A hard day's night)」

ドラマ「冬のソナタ (冬の恋歌)」

松本清張『北の詩人』(1962～63。64年単行本化)

2. 効用としての文学作品使用とその危険性

授業「朝鮮文学と映像」：廉想渉「万歳前」(1922, 24)、全光鏞「カピタン・リー」(61)

梶山季之「族譜」(61) / 林権澤 (79)

李範宣「誤発弾」(59) / 兪賢穆 (60)

プロパガンダ

3. 朝鮮人文学者の日本体験・労働体験と形象化

鷗外「舞姫」、漱石「坊ちゃん」

私小説

プルースト「失われた時を求めて」冒頭部分

宋影 (宋東両) : 「増えゆく群れ」『開闢』(1925. 7) 懸賞公募 3 等入選。22 年に渡日し、ガラス工場などで働くが、その体験を作品化したもの。

韓雪野 (雪野生、雪野広) : 「初恋 (上) (中) (下)」(1927. 1. 12～14)、「合宿所の夜 (上) (下)」(1. 26～27)、「暗い世界 (一) ～ (五)」(2. 8～13)、いずれも『満州日日新聞』(日本語)。家の没落により、家族を引き連れて撫順に移るが、そこでの現実に触れ、プロレタリア作家として再出発する。

李北鳴 (李兆鳴) : 「窒素肥料工場」『朝鮮日報』1932. 5. 29～31。検閲のため 3 回で終るが、のち日本の雑誌『文学評論』1935 年 5 月号に日本語小説「初陣」として全篇掲載される。日窒の興南窒素肥料工場での労働実態を描いたものだが、本人の体験かどうかは不明。

安壤南：44年8月28日から徴用され北九州・伊万里の大日鉷業立川炭鉱で労働。その体験を解放後、「炭坑」（『民聲』1945.12～46.）、「馬」（『大潮』46.1）、「島」（『新天地』46.1）、「星」（『革命』46.1）、「牛」（『朝光』46.3）、「米」（『新世代』46.3）、「夜」（『民聲』46.5）、「春」（『ソウル新聞』46.5.15,16）、「火」（『文学』46.8）などに作品化し、のち作品集『火』（乙酉文化社、1947）として刊行。

4. 実録小説、ルポ

実録小説：李炳柱『智異山』（1979）、『実録南労党』、柳周鉷『朝鮮総督府』

ルポルタージュ：『新東亜』『月刊朝鮮』フリーライターが多く執筆

ムック『ルポ時代』、『実践文学』

5. 植民地末期の文学者派遣と報告記・作品

1939. 4. 15～5. 13：朝鮮文人協会、金東仁、朴英熙、林学洙を「皇軍慰問作家団」として中国戦線へ派遣

4. 16：金東仁「物語的な報告小説を書く－作家の立場から－（出陣記）」

：朴英熙「聖戦の文学的把握－評論家の立場から－（出陣記）」

：林学洙「戦地へのロマンチズム－詩人の立場から－（出陣記）」

以上『国民新報』第3号（日本語）

9. 林学洙『戦線詩集』人文社（朝鮮語）

1940. 11～12：銃後思想運動のための全鮮巡回講演会

1941. 2. 9：扶余神宮の創建造営工事への参加

11. 7～12. 29：内地の聖地巡礼

1942. 12. 4：徴兵制実施を前に宣伝として各地の遺家村を訪問

1943. 1. 20：李泰俊/李無影共訳『大東亜戦記』（人文社、朝鮮語に翻訳）

5. 30：朝鮮軍報道演習

8. 1：海軍特別志願兵制施行

8. 28～9. 13：金史良ら海軍特別志願兵制実施と関連して内地の海軍施設を見学

10. 10～23：金史良「海軍行」（ルポ）『毎日新報』（朝鮮語）

12. 14～44. 10. 4：金史良「海の歌」（長篇小説）『毎日新報』（朝鮮語）

1944. 4. 15：徴兵検査施行期間を目標とした実情視察および美談強化収集のための各地への派遣

4. 20：増産第一線に派遣

6：李泰俊「木浦造船現地紀行」『新時代』[増産現地派遣文人報告]（朝鮮語）

8. 28：安壤南、徴用され北九州に。（伊万里の大日鉷業立川炭鉱）

9. 1：李泰俊「第一號船の挿話」『国民総力』（日本語）

1945. 5. 8：金史良と盧天命、在支半島出身学兵慰問。途中、金史良は延安方面に脱出

1945. 8. 15 : 日本敗戦、朝鮮解放

6. 解放直後、南朝鮮・大韓民国での文学者の動き

1945. 8. 17 : 朝鮮文学建設本部結成。林和、金南天、李源朝等。翌 18 日、朝鮮文化建設中央協議会発足。

12. 10 : ピョンヤンから「党の委任を受け」韓雪野、李箕永らとともに金史良、ソウル入京

12. 12 : 雅叙園で南北の文学者による座談会開かれる。

12. 13 : 朝鮮文学同盟発足。

12 月末 : 鳳凰閣で、「文学者の自己批判座談会」

1946. 2. 8~9 : ソウル鍾路基督青年会館で全国文学者大会開催。朝鮮文学家同盟発足。

(3. 25 : 北朝鮮で、北朝鮮芸術総連盟結成。)

1946. 2 : 金相徳 (北岳山人) 編『朝鮮独立運動史』

6 : 李泰俊「解放前後」『文学』創刊号。

1947. 1. 9 : 「附日協力者、民族反逆者、戦犯、奸商輩に対する特別法律」条令起草委員会設置

3 : 趙容萬『愛国者閔忠生公』

9 : 李石薰『殉国革命家列伝』

1948. 8. 15 : 大韓民国建国。兪鎮午『大韓民国憲法』草案

8 : 李光洙『わが告白』

9. 7 : 反民族行為処罰法、国会通過、9 月 22 日公布。

9. 29 : 反民族行為特別調査委員会 (反民特委) 組織さる。

10 : 蔡萬植「民族の罪人」『白民』16 号 (脱稿は「1946 年 5 月 19 日」)

1949. 3 : 崔南善「自列書」『自由新聞』

10 : 崔秉一『大科学者伝』

7. 李泰俊「解放前後」の持つ問題

小説内で、サイパン陥落 (1944. 7. 18) から国民義勇隊令 (45. 6) までの約 11 ヶ月が飛んでいる。

「文学者の自己批判座談会」での金史良とのやり取り。

[参考文献] : 布袋敏博「日帝末期日本語小説研究」(ソウル大学修士論文、1996)

同 「解放後の金史良覚書」『青丘学術論集』第 19 集、2001. 11

同 「『国民新報』と植民地末期の朝鮮文壇」『語研フォーラム』第 20 号、

2004. 3